

本人が山に登りたい という気持ちがある 日本人を強くする

岡田武史
2010年W杯日本代表監督



W杯ではベスト4を目指し、運動科学、マネジメント、メンタル・トレーニングなどあらゆる先端理論を学び、最適と信じるものを取り入れました。そこで痛感したのは本心当の意味での強い変革というのは、本人がどうしても変わりたい、あの山に登りたいと思うことこそ為されるということ。そう思った選手はほかの選手も変えていきます。こちらからあれもこれも教えよつと思っても選手はなかなか変わらない。細胞レベルでも脳からの指令だけでなく細胞同士が活性化しあうのだそうですね。先生方が取り組んでいらっしゃる教育も同じだと思います。ところが安全・安心・快適な社会で育ち、苛酷な試練を経験したことのない現代の若者は、自分が登るべき山を自分で設定してはなりません。スポーツは、その登るべき山となりえる一つだと思います。

震災後に何回も被災地でサッカー教室を開きました。直接の支援ではないけれど、復興の意欲の後押しができることを実感しました。傷ついた、折れた心に働きかける。スポーツやたぶん芸術はそういった力もつのです。

Takeshi Okada

岡田武史

おかだ・たけし ●1956年生まれ。大阪府出身。早稲田大学政治経済学部卒業。日本代表のサッカー選手として24試合出場。90年現役引退後、指導者としてのキャリアをスタート。98年ワールドカップ・フランス大会日本代表監督。2010年の南アフリカ大会では日本代表を海外開催で初となるベスト16に導いた。現在は日本サッカー協会理事、サッカー解説者などを務めながら、一般社団法人Okada Institute Japanを率い、青少年の野外活動施設・学習環境づくりにも注力。近著にメンタル・トレーニングの第一人者白石豊・福島大学教授との共著「日本人を強くする」(講談社)などがある。